

「社会科学における実験」としての東大入試中止

大久保 満 彦 岡 田 真
山 川 大次郎 鈴 木 壮 衛

I 社会科学の実験の場としての東大入試中止¹⁾

東大入試中止後の1年間、権威ある新聞は「東大入試復活と同時に、全国の大学から東大再受験者が殺到するであろう」という予想を、くりかえし紙面にかかっていた。ところが事実は予想に反し、昭和45年に再開された東大入試の受験者数は、昭和43年に比べて、はるかにすくなかった。もちろん、受験者数は合格に要する学力と正確に比例するとはかぎらない（受験者数のきわめて多い私学に、かえって入学の容易な学校さえ存在する）。

しかし、再開東大入試に受験生が集まらなかったということは、高学力者だけが東大を志願したことを意味するものでなかったようである。この年度に関する信頼しうる受験資料によれば、東大よりむしろ京都大、東京工大、一橋大、東京外語大の方が、入学に要する学力の水準は高かったのである。²⁾

東大より学力の高い学生を集める大学の存在が可能になったのは、昭和45年が最初ではないであろうか。いまや日本の社会には、一つの大きな変化が進行しようとしている。

しかし、昭和40年代初頭までの一般的傾向としては、各大学に対する社会的評価は、東大を頂点として、ピラミッド型成層をなしていた。そして、高等学校にも、東大進学者数によるランキングが、各県ごとにつけられていた。ここにとりあげる灘高などは、ほとんど全員が東大に進学するという意味で、高校ランキングのトップに位置していた。ちなみに、昭和42年度の同校卒業生の進学状況をみると、1番と2番の生徒が京都大に進学しているほかは、「下の

2 「社会科学における実験」としての東大入試中止

上」までのほとんどの生徒が、東大に進学しており、私立大学などは、早大を例外として、受験の対象とさえもされていなかったことがわかる。³⁾

さて、わが国における諸大学に対する社会的評価の体系が、実際にどのような構造をもっているかを実証的にとらえることは、これまではほとんど不可能に近かった。もちろん、受験生にアンケート方式の調査を加えれば、概略の姿はとらえることもできたであろう。しかし、アンケートによっては、回答者が「あるべき秩序」と考える構造だけしか知ることができないのであって、回答者の実際の行動は、その答えたところと必ずしも一致しないかもしれない。

ところがここに、評価体系のトップに位する東大の入試が、突如中止されたのである。例年大部分の生徒が東大に進学していた灘高では、そのとき、どのような事態が生じたであろうか。この異常事態に直面して灘高生が採った志望校選択に、彼らの東大以外の諸大学に対する評価が、いつわらざる姿であらわれているのではないであろうか。

われわれは、この年度の彼らの受験行動から、東大合格可能な学力をもつ人たちの、東大以外の諸大学に対するいつわらざる評価をさぐってみようと思う。

元来、社会科学における実験の困難は、レビンをはじめ、実証研究を志す多くの学徒のひとしく訴えるところである。その実験の場が東大入試中止によって天から与えられたのである。東大入試中止は、かなしむべき出来事であったが、この出来事が提供するデータを、すこしでも有効に、われわれの学歴問題研究⁴⁾に活用していきたい。

II 行動によって示された大学評価体系

調査対象は昭和44年度灘高卒業生全員である。彼らを、文科系と理科系のそれぞれについて、

- { 京都大学進学者
- { 京都大学非進学者
- { 京都大学以外の国立一期校進学者
- { 国立一期校非進学者

{国立二期校進学者
 {国立二期校非進学者
 {公立大学進学者
 {公立大学非進学者
 {私立大学進学者
 {私立大学非進学者

に分類，整理することを原則とした（この年度に卒業して浪人することになった者に関しては，出願しながら棄権した者，試験に失敗した者は，表に記されているが，全く出願しなかった者は，記録されていない）。

その結果得られたのが，第1表～第10表であって，各行ごとに，1人の受験生の全受験校とその合否が記されている（受験校多数のため，1人の受験行為の記録が2行以上にわたるようなばあいは，{記号でくくっておいた）。

表示部分中，ゴシックの校名は進学校，波線でアンダーラインをほどこした学校はその受験生が受験に失敗した学校，アンダーラインをほどこした学校は彼が受験を棄権した学校，ゴシックの校名にアンダーラインをほどこした学校は，彼が合格しながら進学を棄権した学校を示す。例をあげれば，

京_経は京大経済進学 阪_法は阪大法落

神_管は神戸大経営棄権 橋_商は一橋商合格棄権

という意味である。

(1) 文科系志望者のばあい

まず，京都大学に合格しかつ進学した者の全員の受験校を表示するならば，第1表のようになる（この年度は，京都大，大阪大，神戸大の一期校3校に同時に出願している者も珍しくない。そのため，同表には，阪大棄権，神大棄権の記号が数多く見受けられる）。彼らの受験行動には次の三つの特色が認められる。

- ① 上に説明した意味での京大同時出願校として，神戸大を大阪大，一橋大と同格に京都大合格者はみなしている。

4 「社会科学における実験」としての東大入試中止

② 京都大進学者が出願後棄権した国立二期校は、横浜国大経済、東京外語大などである。

③ 京都大進学者は、早大以外の私大には出願していない。

それでは、京都大学を受験しなかった者のうち、他の国立一期校に進学した者は、どのような受験行動をとったであろうか。それを第2表にみるならば、彼らの行動には次の特色がみいだされる。

① 京都大進学者に他の国立一期校併願者が多かったのと対照的に、阪大、神大、一橋大進学者には、京大併願者がすくない（阪、神、橋、第1志望の者でなければ、合格がむずかしかった。京大と阪、神、橋の合格学力水準の接近を示す）。

② 京都大以外の一期校の合格者には、二期校出願者は多くない。彼らは、いわゆる「すべりどめ」として早大をより多く選んでいる。

以上が国立一期校進学者の受験行動であるが、では、国立一期校に進学しなかった（できなかった）者は、どのような受験行動をとったであろうか。第3表にその傾向をみるならば、

① 国立一期校1校のみの出願者で、本来の志望校を落ちた者は多くない（第2表の傾向①を補完）。

② 国立一期校を落ちた者が、国立二期校に進学する例はすくない。阪大、神戸大を落ちた者の多くは国立二期校も落ちている。

③ 上記②にかかわらず、国立一期校を落ちた者の一部は、横浜国大経済、東京外語大に進学している（これらの学校は、京大進学者によっても出願されていることを想起されたい）。

④ 京都大を落ちた者のレベル以下からは、第二志望の私大として早稲田の他に慶応も選択されるようになる。

以上で、灘高生文科系進学の様子は、全て説明しつくされているのである。すなわち、第1表から第3表までに、彼らの受験行動は全て記されているのであるが、これら3表を読みなおすことによって、国立二期校や私大に対する彼らの評価体系をさぐりだしてみよう（その分析に際しては、表も再構成した）。

その表は、岡田の口頭発表に際しては会場で配布した)。

まず国立二期校では、横浜国大、東京外語大、大阪外語大、および愛媛大法学部に、灘高生は進学している。また、公立大学では神戸商大を神戸大進学者が受験の対象としている。

これらの傾向をみると、愛媛大、神戸商大などのいわゆる地方国公立大学の評価が上昇していることがわかる。岡田が他の報告で指摘したところの、地方国公立大学生の学力水準向上の事実のあらわれの一つであろう。

次に私立大学についてみるならば、大部分の灘高生にとって私学は併願の対象の一つにすぎない。しかし、「中の下」以下の生徒には、私大のみを志願する者も少数はみられる(1~3表には記されていない)。また、特殊な生徒が仏教系大学1校のみを受験し、かつそこに進学している。私大進学にみられる傾向は次の如くである。

① 私大第一志望の灘高生はほとんどいない。

② a) 早大政経進学者は全て京都大を落ちた者である。b) 早大政経を落ちても早大他学部には合格可能。

③ a) 慶大経済進学者は全て一橋大を落ちた者である。b) 神戸大経営を落ちても慶大経済に合格した者がある。c) 慶大経済を落ちても慶大他学部には合格可能。

④ 早大政経を落ちても、慶大経済、慶大商学には合格可能。その逆のケースは存在しない。

⑤ 早大には国公立進学のための「合格棄権者」が多い。慶大合格者の国公立合格度は、早大合格者のばあいより若干低い。そのため、早大合格者数は慶大合格者数より多いにもかかわらず、国公立に逃げられてしまうため、進学者数では早大は慶大を下まわっている。

(2) 工学部進学者のばあい

理科系進学者は、医学部、理学部、農学部の各学部を併願したり、またはそのいずれか一つを選んで出願したりする者と、工学部進学希望者とに大きく分

6 「社会科学における実験」としての東大入試中止

けることができる。

そのうち、工学部系進学希望者について、まず、国立一期校進学者の受験行動を第4表と第5表に、そして国立一期校非進学者の受験行動を第6表に、それぞれ整理してみた。これら国立一期校受験生にみられる特色は、

- ① 京都大、東京工大には「出願1校のみ」の者が多い。
- ② 国立一期校合格者には、国立二期校出願者も多い（文科系のばあいと傾向が異なる）。
- ③ 国立一期校出願者の併願する私大はほとんど早大理工である。ただし阪大出願者には慶大を併願する者もある。

とまとめることができる。

国立二期校進学者は、全て国立一期校受験者でもあって、その行動は第6表中に記されている。その進学先をひろいあげるならば、京都工繊大（京大落3例）、名工大（京大落）、埼玉大物理（阪大落）の5例がある。ここに埼玉大が灘高生の選択の対象となっていることは、注目に値するのであって、文科系における愛媛大のばあいと同じく、地方国立大の学力水準上昇をあらわすものといえよう（ただし関東地方では、埼玉大は早くからエリート校化している）。

国立二期校を落ちたり棄権したりした者は、大部分が国立一期校受験者であるが、「一校のみ出願」でありながら受験しなかった者も横浜国大に2名、名工大に1名ある。彼らの選択の対象となった二期校は、横浜国大、静岡大、京都工繊大、名工大、埼玉大、信州大、県立姫路工大（試験日は二期校と同時）などである（ただし、埼玉大物理の棄権者は二期校のなかでは東京外語大を受験し、かつ失敗しているという、やや非合目的な行動をとる人間である）。

私立大学進学者は、ほとんど全て国立一期校を落ちた者である。進学者数は、早大理工3名、慶大工1名、関学理1名の計5名である。私立大学に対する彼らの反応の特色は、

- ① 合格数は多いが進学数はすくない。
- ② 早大進学者と関学進学者は国立一期校出願者である。
- ③ 慶大進学者は国立二期校出願者である。

とまとめることができる。

私大棄権者の大部分は、国立大学進学者である（早、慶、関学、東京理大を棄権して国立へ）。

（3） 医学，理学，農学部のばあい

医，理，農系の国立一期校，および「国立一期校と同時に入試を行なう公立大学」に進学した者は，第7表と第8表にみられるような受験行動をとっていた。その基本的傾向は文科系のばあいとあまり変わらないが，医学部の特性を反映して，次のような傾向も認められる。すなわち，

- ① 阪大合格者には，京都大に出願後棄権した者が多い（文科系阪大合格者のばあいは，阪大を第1志望とする者が多かった）。
- ② 阪大合格者には，慶応大医に合格後に慶大進学を棄権した者が多い。

という傾向が認められるのであって，医学部志望者の，慶よりは阪，阪よりは京，という選択がよくあらわれているのである。

国立一期校の医学部に入れなかった者の受験行動は，第9表に示される通りであって，彼らはいわゆる地方国公立大学の医学部を選ぶことが多い。すなわち，国立二期校の信州大医学部に2名（阪，京を落ちた者），また国立二期校と同時に試験を行なう奈良県立大医学部に3名（阪，名市大を落ちた者）が進学している。

国立二期校を落ちたり，棄権したりした者の受験行動も，そのほとんどは，第9表に示されているのであって，灘高生の受験の対象となった二期校は，きわめて多彩であることがわかる（なかには，国立二期の医学部に合格しながら，京都大の法学部に進路をとった者もあるのであって，この表には，1～8の諸表と重複する部分もある）。

公立大学のうち，国立大と異なる時期に入試を行なう学校では，和歌山県立大の医学部に2名の灘高生が進学している。その2名のうちの1名は，阪大医学部を落ちた者であるが，他の1名は，阪大工学部に合格しながらそれを棄権

8 「社会科学における実験」としての東大入試中止

し、あえて和歌山県立大を選んだ者である。

公立大学のうち、灘高生が出願しながら進学しなかった学校としては、次のようなものがある。まず国立大学受験者3名が横浜市立大医学部を受験し、3名とも失敗している。また京大農学部進学者が岐阜薬大に合格しながら棄権しているし、和歌山県立医大にも、棄権者、合格後棄権者が多い。さらに、1人の受験生は、大阪市大、福島県立、その他私大も含めて6校に出願しながら、その全てを棄権している。

以上にみたように、東大入試中止に際して灘高生のかなりの部分は、地方国公立大学を受験の対象として選択し、かつ実際にも進学しているのである。

これと対照的なのが私立大学医学部であって、彼らは私大医学部も受験してはいるが、実際に進学した者は皆無であった（第10表参照。なおこの表に記されている受験行動の大部分は他の表と重複する）。

III ノミナルな層序と実質的な層序

もし、東大入試中止という異常事態がなかったならば、われわれは東大以外の大学に対する灘高生の認識とその体系を、実証的に示すことはできなかつたであろう。もちろん、灘高生の認識は、同世代の全ての日本人のそれを代表するものではありえないかもしれない。しかし、わが国における大学の社会的評価体系の最上位部分を解明するためには、彼らのとった行動は、きわめて貴重な資料を提供してくれる。

上に示した諸表には、東大合格可能者たちの諸大学に対する評価が、いわゆる“タテマエ”においてでなく、“ホンネ”において、記録されているのである。

彼らの昭和44年度における諸大学の認識には、依然として、東大、京大を頂点とする伝統的ハイアラーキーの反映がみられる。しかし、それと同時に、大学のノミナルな価値よりも、その大学に進学することの実質的利益を高く評価するという、新しい傾向もまた認められる。たとえば、医学部志望者が伝統的

大学の志望外の学部合格しながら、あえて地方国公立大学の医学部に進んでいるなどの事例も、われわれはみてきたのであった。

ノミナルな大学評価体系から実質的な評価体系への移行のきざしは、ひとり灘高生だけでなく、広く同世代の日本人にみとめられるところである。

名目から実質への移行が一般的であることの一例として、復活後の東大入試に地方国公立大学からの再受験者があまり集まらなかったことを、あげることでもできよう。東大再受験者が予想外にすくなかったことの原因として、考えられるところを列挙するならば、①地元の新興国公立大学で学んだ方が学資がかからない。②いわゆる受験勉強の他に真の学問研究があることを、変動の1年間に知って、受験準備を放棄した。③1年遅れて大学を卒業することの社会的不利の認識。④山川は諸受験雑誌に執筆した文章で、「大学を選ぶより学部を選べ」とくりかえし唱導したが、受験生がしだいにそのような判断をもつようになってきた。⑤地方大学を卒業しても、大学院で東大に移れることが、認識されてきた。⑥特に医学部志望者のばあい、地元の大学を卒業した方が開業に有利である。その他、さまざまな要因が数えられよう。しかし、東大のノミナルな名声にあこがれて、5年も6年も浪人生活を送るような日本人は、皆無でないまでも、現在ではもはや、きわめて稀な存在である。多くの東大志望者は、実質において東大での学習と同等の果実を期待しうるばあいには、東大以外の大学を、東大の代替物とすることができるだけのフレキシブルな態度をもっているのである。

国立大学の評価において、ノミナルな名声より実質的内容の尊重へという変化をみせつつあるこの世代は、私立大学についても、いわゆる伝統や校風などだけによって評価を下すものではなくなっている。すなわち、かつては、東大等の受験者が、ほとんど全て、早慶等のいわゆる有名私大を第2志望校として選択していた時期もあったが、昭和45年度には、旺文社の調査によると、「第1志望国立一期、第2志望私立」という選択をする者は、受験生のわずか3.1%に過ぎなくなっている。そして、有名私大にかわって国立二期校と公立大学が、国立一期校受験生の選択する主たる第2志望校となっているのである（全

受験生の14.3%)⁵⁾

これらの事実は、筆者らの手許にある資料のうちの一小部分にすぎない。これら諸事実から判断するならば、わが国のいわゆる学歴社会は、ようやく変化しようとしているといえよう。

しかし、大学受験生の大学評価体系の変化は、直ちにこの世代のいわゆる反体制的社会認識と結びつくものではない（この自明の理をわざわざ確認しておくのは、一部の学校経営者のなかに、学生のあらゆる態度変容を、学内危険思想として一括することしか知らない人がなきにしもあらずであるからである）。

彼らの大学評価が、ノミナルな伝統等の要素より実質的内容を重視するように変化していくならば、「レッテルとしての学歴」と、「実質としての学歴」の一致もやがて可能となるであろう。⁶⁾ レッテルと学歴の乖離が解消すれば、会社や官庁の採用人事はずっと楽になる。この意味で、現代の若者が伝統的名門校に背をむけはじめたということは、いまの社会体系の維持に貢献するものなのである。⁷⁾

かつまた、地方国立大学の評価上昇等の一連の変化には、広域中心都市の発展などの、日本列島全体の社会の変化から影響をうけていることも、また否定しえないであろう。⁸⁾

（本稿は、大久保満彦教授と筆者の共通の友人であるところの、大阪経済法科大学教授山川大次郎氏の絶大な協力のもとに草されたものである）

【注】

- 1) われわれは、全国の高校の進路指導資料に残る東大入試中止の影響のあとを保存するように呼びかけたい。これらの資料は、いずれもきわめて貴重な内容をもつべきものであるにもかかわらず、放置しておけば、やがては心ない人たちによって処分されてしまうであろう。
- 2) 旺文社、学習研究社の資料による。
- 3) 山川大次郎「難高一その周辺と構造一」（光彩社）、「受験競争」（潮出版）
- 4) 岡田真「学歴社会と教育」（大明堂）他。
- 5) 旺文社「昭和45年度大学志願者の実態分析一1」75頁。
- 6) 清水義弘氏が指摘した問題点。

- 7) このような社会の一般的傾向が、灘高に典型的にあらわれるのは、灘高が、「ブルジョア私立」としての性格をあまり強くもたず、サラリーマン層の子弟を比較的に多く収容しているからであろう。同校の経済的分析は、山川大次郎、前掲書に詳しい。
- 8) 日本都市学会年報、第3集、第4集、第5集の岡田論文を参照されたい。

第1表 京都大文科系進学者の受験行動

<京大法>	大阪外
1校のみ 2例	医歯大, 鹿大医, 横国医
阪法	<京大経>
阪法	神営, 医歯大
神営	神経, 神営
神経, 大阪外	<京大文>
横国経	1校のみ 1例
横国経, 早	阪文
横国経, 早政, 関学経	東京外, 大阪外, 早文

第2表 京都大以外の国立一期校進学者の受験行動 (文科系)

<東北大経>	<阪大法>
早政, 早商, 早法	京経, 神戸法, 東京外, 早法
<東北大教>	横国経, 早政, 早商
{ 早政, 早法, 早文, 慶文	<阪大経>
{ 九州歯, 阪歯, 関学法, 関学文	関学経
<一橋大経>	<神戸経>
1校のみ 5例	阪法, 関学経
京大法, 慶経	<神戸営>
東京外	神戸経
<一橋大法>	京経
1校のみ 1例	京法, 阪経, 神戸商大
早政	京法, 大阪外
京経, 東京外, 慶経	京法, 慶経
<一橋大社>	京経, 慶経
1校のみ 1例	慶経, 慶商

第3表 国立一期校に進まなかった者の受験行動 (文化系)

<神戸法落>	横国経, 京文, 早政
1校のみ 1例	横国経, 大阪外
愛媛法	<京大経落>
<一橋経落>	1校のみ 1例
京法, 神経	京法
関学商, 横国経, 早政, 早商	神営
慶商, 関学経	早文, 神経, 東京外, 大阪外, 早政
慶経, 東京外	<京大文落>
慶経, 慶法, 慶商	東京外
<一橋商落>	横国経
京経	横国経
早政, 慶経	早文
慶経	<阪大法落>
{ 慶経, 京経, 阪経, 神営	1校のみ 2例
{ 東京外, 早政, 早商, 慶商	関学経, 関学商, 関学法
慶経	早政, 早法, 京法
<一橋社落>	<出願校全部棄権>
1校のみ 1例	京文
<阪大経落>	阪法, 横国経, 東京外
関学商, 大阪外, 神戸外, 関学社	<京大法落>
横国経, 早政	1校のみ 3例
早政, 早法, 慶経, 慶商	神経 2例
早政, 慶経, 慶商	神営 1例
早政	橋法, 大阪外, 早政
<阪大文落>	橋経, 神経, 滋賀経
早政, 早文, 慶経, 慶法, 慶文	静岡文
<神戸経落>	東京外, 橋法
1校のみ 1例	東京外, 阪法
京経, 神戸営	横国経, 阪法
関学経, 京経, 大阪外	横国経, 神経, 早政
早政, 慶経	早政, 阪法, 神経, 大阪外, 早法
<神戸営落>	早政, 阪経, 橋経
京経, 関学経, 関学商	早社, 早文, 早法
慶商, 慶経	慶経, 神経, 早政

第4表 京都大学工科系進学者の受験行動

<京大工>		阪基工, 静岡工
1校のみ	10例	阪工, 早理工
東工大	2例	阪工, 京葉, 早理工, 広島工, 名工大
阪工		名工大
阪基工		横国工
阪工, 名工大		京工繊
阪工, 名工大, 阪市工		医科歯, 早理工
阪工, 横国工		医科歯, 和歌山県医
阪基工, 横国工		大阪外
阪基工, 横国工, 和歌山県医		早理工
		2例

第5表 京都大以外の国立一期校進学者の受験行動 (工科系)

<阪大工>		<阪大基工>
1校のみ	2例	名工大
{京工, 京工繊, 名工大		静岡工
{京工, 京工繊, 早理工		東工大, 名工大, 早理工
{慶工, 東理大		名工大, 早理工
{阪医, 京工, 東工大		<東工大>
{医科歯, 慶経		1校のみ
		2例
		早理
		3例

第6表 国立一期校に進まなかった者の受験行動 (工科系)

<工学以外の学部へ>		<阪大工落>
京工→京医		埼玉物理
阪基工→京農		<阪大基工落>
<京大工落>		京工, 阪工
1校のみ	2例	京工, 名工大
京工繊		名工大, 早理工
京工繊, 阪工		姫路工, 同志工, 関学理
京工繊, 早理工		<神戸大工落>
名工大, 阪工		姫路工
名工大, 静岡工		<東工大落>
横国工, 早理工		1校のみ
阪工, 早理工		<1例東北工棄権>
早理工		京理, 阪理, 東理大

第7表 京都大医，理，農系進学者の受験行動

<p><京大医></p> <p>{ 京工, 阪医, 神医 信州医, 岐医 私立関西医</p> <p>{ 京理, 阪医, 医科歯 岐医, 和歌山県医</p> <p>京大理, 信州医 医科歯</p>	<p><京大理></p> <p>1校のみ 阪理 東北工</p> <p><京大農></p> <p>名理, 信州医 阪基工, 早理工 東農工, 岐薬大</p>
---	---

第8表 京都大以外の国立一期校進学者の受験行動 (医, 理, 農系)

<p><阪大医></p> <p>京医 京医, 和歌山県医 京医, 信州医, 和歌山県医 私立関西医, 阪医 慶医 2例 慶医, 医科歯</p> <p><阪大理></p>	<p>神理</p> <p><神戸大理></p> <p>1校のみ 1例</p> <p><北大理></p> <p>1校のみ 1例 大阪外, 信州農</p> <p><京府医大></p> <p>京医, 神医, 医科歯, 慶医</p>
--	--

第9表 国立一期校に進まなかった者の受験行動 (医, 理, 農系)

<p><京大医落></p> <p>阪医, 医科歯 信州医, 阪医, 医科歯 慶大医, 医科歯</p> <p><京大理落></p> <p>神医, 医科歯</p> <p><阪大医落></p> <p>1校のみ 1例</p> <p>{ 信州医, 医科歯, 神医 和歌山県医, 横市大医 和歌山県医大</p> <p>奈良県医大, 医科歯, 慶医</p> <p>{ 奈良県医, 和歌山県医 名古屋市医, 関西医大</p>	<p>大阪外, 関学経 京医, 神医, 医科歯, 慶医 医科歯, 慶医</p> <p><阪大理落></p> <p>早理工</p> <p><神戸医落></p> <p>京医 鹿児島医, 横市医</p> <p><北大医落></p> <p>京医, 徳島医, 信州医 奈良県医, 和歌山医</p> <p><京都府医大落></p> <p>1校のみ 1例</p> <p><名古屋市大医落></p> <p>奈良県医, 和歌山医</p>
--	---

第10表 私大には一人も進学していない(医, 理, 農系)

<慶大医合格後棄権>

<See 阪医合(2)>

<慶大医落>

<See 京医落, 阪医落(3), 京都府医合>

<関西医合格後棄権>

<See 京医合>

<関西医棄権>

<See 阪医合, 出願校全部棄権>

<大阪医大棄権>

<See 阪大医合, 出願校全部棄権>

<大阪歯大棄権>

<See 九州歯棄権, 出願校全部棄権>